

＜年末年始のお休みにでもどうぞ—2 MOVIES & one BOOK＞

師走の慌ただしい時期、皆さんいかがお過ごしですか？ 今回はこの場を借りまして一文を書かせてもらうこととなりましたので、最近観た映画を紹介させていただきます。普段ほとんどいい映画を見ないのですが、おもしろいドキュメンタリー映画を2本、どちらも映画館ではなく小さな上映会で観たので、あまり知られていない映画かとも思い今回は紹介してみます。

『マエストロ』

ひとつめの映画は『マエストロ』。舞台は70年代から80年代にかけてのニューヨーク。まだ「アンダーグラウンド」という言葉すらなかった時代、ディスコ/クラブ黎明期の話です。有名DJがたくさん登場したり、パラダイス・ガラージのスタッフが当時の様子を語る姿にはまさに生き証人という言葉がピッタリです。

ロフト、ギャラリー、パラダイス・ガラージといったレジェンダリーな場所とパーティーが、当時どのような社会状況のもとに誕生したのか、コマーシャルなパーティーとは一線を画す場のこと、クラブで聴く音楽のこと、そしてその音に身を委ねるようにダンスに生きるよすがを求める過酷な都市の現実のこと、とイロイロ考えさせられます。

オリジナル・ロフトのフロアやパラダイス・ガラージのダンスフロア(夢中でダンスするキース・ヘリングの姿は残念ながら写真でしたが)など、観るだけで鳥肌モンの貴重な映像・スチール盛沢山ですんで機会があれば是非！(年明けにはDVDが出るそうです。)

『アマンドラ！』

さてもう一本は『アマンドラ！』。舞台はアパルトヘイト下の南アフリカ。迫害され、排除される黒人が政府に対し抵抗をしていくわけですが、彼/彼女らには銃や車といった武器がない。そこでどうしたか。なんと彼/彼女らは音楽を抵抗の武器にしてしまうのです！

日常を歌にし、哀しみも歌にかえる。植民者の言葉ではなく自らの言葉をメロディーにのせて歌うその姿はしかし、支配者の怒りを買ひ、嫌がられ、弾圧され、あげく刑務所ほうりこまれ、処刑されてしまいます。だが決して歌を止めはしない。そして叫ぶのです、「アマンドラ！」と。

アマンドラとは「power to the people」の意。まさに人民のパワーによるアパルトヘイトの告発が、やがて80年代にいたり世界に広まっていくのです。

そして映画は、伝説的な解放闘争の指導者ネルソン・マンデラが解放され、選挙でマンデラがリーダーに選ばれ、支援者が集まるスタジアムには人民の歌声が響き渡る様子を映します。そこに響き渡るのには歌声は怒り、哀しみ、そして闘いを経た後の歓喜の歌声です。

歌を武器にした闘争がアパルトヘイトを廃絶させる様子を入びとの証言をもとに構成していくのですが、半端でない苦闘の連続に闘争のメロディーが結びついた様子、その美しくはげしい歌の数々に圧倒されます。

さてこの2本の映画、一方の『マエストロ』ではガラージ以降の90年代後半以降のクラブ・シーンの拡大をかなりポジティブに捉えています。他方の『アマンドラ！』では94年以降のポスト・アパルトヘイト時代の南ア社会の厳しい現実なんかにはまったく触れておらず、その点では対照的な一面もあるように思いますが、どちらも音楽と関係しているというところは共通項です。

片や大都会の日常からの解放としてのクラブ、片や史上稀にみる排外的政策からの解放の手段としての歌。どちらがどうってことではまったくなく、単純に音楽によって繋がりがあうことでこんなにも底知れぬパワーを発揮することがあるのかってなことを感じました。

『アマンドラ！』に語り部として登場するヒュー・マセケラの曲が80年代にはガラージでプレイされていたりもして、この2つのストーリーが同じ時代の話であることも驚きです。HPもありますのでチェックしてみて、機会があればご覧になってください。

『ECDIARY』

最後に——、今回紹介した映画とはまったく関係ないのですが、最近読んで面白かった本があるのでついでに紹介させていただきます。

ECD「ECDIARY」readymade international.

そう、小西康陽のレディ・メイドが出したラップ・ECDの本です。刺激的な内容ですのでは非一度手にとってみてください。紙幅の都合と書き手の力量からここではその内容に触れずにおきますが、この一冊も機会があれば是非！てなことで映画2本とおまけ一冊の紹介でした。

(文責: Itaru Wakui)

参考URL

<http://www.nowonmedia.com/MAESTRO/>

<http://www.amandla.info/>

<http://www.readymade-intl.com/>

next collective

次回collectiveは

2005年04月03日(日)を予定しています。
また春にお会いしましょう。

<http://www.sound.jp/collective/>

collective全体について、またこのpress collectiveについてのご意見・ご感想が僕達の最大の活力源です！皆でもっと楽しいパーティーを作りませんか？ぜひ上記WEBサイトから皆さんの声を聞かせてください！

press collective

pick up of the issue

徳日記スペシャル!

「滝ッズ」大集合！ 第三回 熊野地方の滝 楠田行展

皆さん、今日はcollectiveのために貴重なお時間を空けていただきましてありがとうございます。今回のpick up of the issueはボクの滝日記spです。この日記がcollectiveを楽しく過していただくための、お役に立てれば幸いです。また今年はcollectiveの始まりの年でした。ご参加いただきありがとうございます。来年もよろしくお祈りします。紙面を借りてお礼申し上げます。

それでは今回も張り切っていきましょう。今回は今年の夏に仲間二人と行った熊野方面の滝を紹介します。その日は晴天に恵まれました。朝早くから集合した大和高田市から五條市まで国道24号線を南下すること約一時間、そこから168号線に乗り、車で約一時間半かけて、日本一大きい秘境の村、奈良県十津川村を目指しました。そして168号線の滝川口より東へ約12 km走り、渓谷深くにある「笹(ササ)の滝」に到着です。割と整備された道を歩き壺に近づき、滝を眺める。。



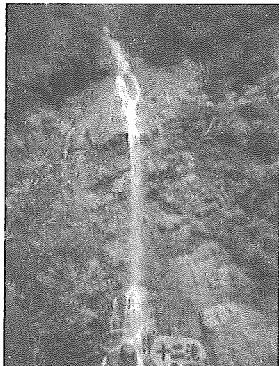
笹の滝

うーん。この滝は素晴らしいですよ。ゴーツという轟音とともに落とす水の落差32m。傾斜の着いた岩から一気に水が落ちてくる感じでした。壺近くの岩に立って全貌を見ようとすると水飛沫と巻き起こる風で飛ばされそうになります。ほんと凄いわ。たまらんよ。皆口々に「ヤバイ」とつぶ

やいていました。豪快すぎて、ボクは少し恐怖を感じましたね。滝の周りの原生林や、急激な水によって削られて真っ白くまんまるになった岩、蒼色の水、総てが◎でした。なおこの笹の滝、「日本の滝百選」にも選ばれており、また県下31ヶ所の「やまとの水」にも選ばれています。

【笹の滝】

交通: JR五條駅から車で国道168号線を1時間半、滝川口を東へ30分。



十二滝

その後、十津川村の道の駅で足湯に浸かり、食堂で鮎がのったそばと炊き込みご飯を頂きました。やっぱり山行くとそばやね〜。おいしかったです。そして道中は続きます。和歌山の新宮市方面に車で1時間ぐらい走っていると168号線の脇にバカでかい滝に遭遇しました。この滝は奈良県と和歌山県の境の「十二(ジュウニ)滝」といいます。壺の前まで近づけ結構楽しめます。水量は少ない方で頭上から水が降ってくる感じです。全長100m! あるそうで頭上からの水と戯れていると横に国道が走っていることを忘れてしまいます。ホント清々しかった。ボクは以前、別の友人と夜中の十二滝を拝んだことがあるのですが怖かったですよ。滝って、昼と夜では全く違う印象を抱くものなんですよね〜。

【十二滝】

交通: 国道168号線で南下、十津川村役場を通過して十津川温泉に入り少し走ると国道425号線と国道168号線の分岐を国道168号線で更に南下、奈良県と和歌山県境の近く。

この旅は熊野詣も一応兼ねていたもので和歌山県に入って、本宮町の「熊野本宮大社」、新宮市の「熊野速玉大社」も拝んで参りました。そして、いよいよメイン・イベントの「熊野那智大社」に向かいます。この那智大社は「那智大滝」を神体として祀る神社で、熊野詣のゴールとして修験道者、お坊さん、民間人などいろんな人が目指す神社です。山岳宗教は、教派、宗派とかは混在するもので神社に滝があったり、寺に滝があったりするものなんです。やっぱり自然物を信仰の対象とする日本人の感覚って素晴らしいね。八百万の物には神様がいらっしゃるっていうやつです。それでは、「那智大滝」の解説。

和歌山県那智勝浦町に存在する、言わずとも知れた大滝でその落差133m! 直下で落ちるため壺近くからは水が霧になり、風が巻き起こっています。日本三名瀑の一つ(他は栃木県:華厳の滝、茨城県:袋田の滝)で、豪快さ美しさを兼ね備えています。観光地の滝なのですが、杉の大木をはじめとする那智原生林(天然記念物)や社の入口から滝まで続く「鎌倉積石階段」という石畳の階段が神秘的な雰囲気、凜とした空気を見事に作り上げています。本当にここは神がかったところですよ。だって、山に向かう車から木々の割れ目からドカドカ水が落ちて壺がスケールのデカさを物語ってるもんねえ。あくまで神体なので壺には行くことができません。難を挙げればそれぐらいですね。

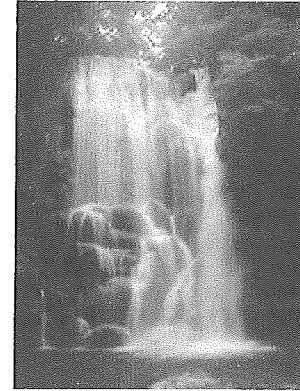
神社の行事としては毎年7月9日と12月27日の2回、古来からの神事にのっとり「御滝連縄張替行事」が行われているようです。また観たいなあ。また、今回は大滝以外の観瀑は出来なかったのですが、大小48の滝があり二の滝や三の滝、文覚の滝や陰陽の滝などが知られています。二の滝・三の滝を観る場合は事前に那智大社へ連絡が必要とのこと。那智はオススメのスポットですね。

そのあとは、那智勝浦町内の民宿に泊まり、晩飯にネギトロ丼や郷土料理のめはり寿司などをおいしくいただき、一日目の疲れを癒しました。

【那智大滝及び那智四十八滝】

交通: JR紀伊勝浦駅から熊野交通バス那智山行きで滝前下車、約30分。その他、観光タクシー・定期観光バスなどもあり。

二日目は残念ながら雨でした。取り敢えず、雨の中、来た道に戻るような形で国道42号線を北東に走り、新宮市街から168号線に復帰、山に向かって走る。15分して相賀という交差点から高田方面に少し入ると個人的に一番楽しみにしていた「桑の木の滝」の入口に到着しました。



桑の木の滝

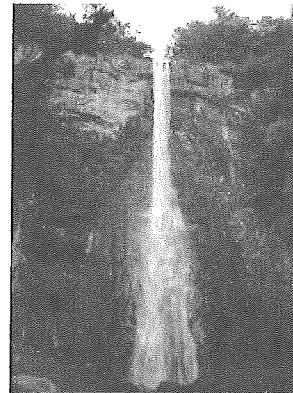
験でした。落差、約21m、幅約8m。昔、桑の木が周りにたっていたそうです。◎!

そのあと、十津川村まで戻り、断崖国道の425号線に入り、龍神村を通過して高野山にお参りをして今回の熊野の旅を終えました。楽しい冒険でした。

【桑の木の滝】

交通: JR新宮駅から高田行きバス30分、相賀下車後徒歩15分。

「ボクにとって滝に行くことは癒しを求めるのでもなければ、マイナスイオンを浴びるためでもない。ただ岩や木そして水を自分の五感で感じ、感動を得る、それだけです。なのでボクは滝を冒険だと捉えています。癒しがあるとすれば、道中に話す仲間との他愛も無い会話とか車内のBGM、そして無事に観瀑を終えての風呂とかそんなもん。自然に癒しを求めてはいけないうし、癒してくれない。癒しは人と人のコミュニケーションで生まれる。」 一滝ッズ 楠田行展



那智大滝